

第 1133 回経営委員会議案

(議決事項 )

平成 23 年 1 月 11 日

## 平成 23 年度国内放送番組編集の基本計画について

平成 23 年度の国内放送番組の編集については、別冊のとおり基本計画を策定したので、定款第 13 条第 1 項第 1 号クの規定により議決を得たい。

平成23年1月11日

平成23年度

国内放送番組編集の基本計画  
(案)

# 編集の基本方針

---

政権交代後も安定しない政治状況や長引く経済の停滞など、日本はさまざまな課題を抱えています。加えて、少子高齢化の進展や生き方・働き方の多様化により地域や家族のきずなが希薄になり、孤立感を深める人々も増えています。

このような先行きが不透明な時代に、NHKは、心のよりどころとなり、将来への展望を示すような番組や情報を届け、公共放送への期待に応えていかなければなりません。

また、平成23年（2011年）7月には地上テレビ放送、衛星放送のアナログ放送が終了して、いよいよテレビは“フルデジタル時代”を迎えます。

すべての視聴者が円滑にデジタル放送へ移行できるよう万全の態勢で臨むと同時に、衛星放送がハイビジョン2波となるのを機に、地上波もあわせたテレビ4波の役割を改めて明確にして、それぞれの役割にふさわしいコンテンツの開発・再配置と、それぞれの個性を発揮する番組編成を実施します。音声放送も、3波の特性を生かした番組編成を推進します。さらに、インターネットや携帯端末向けサービスも効果的に連携させて、総体としてサービスの充実を図り、視聴者の幅をさらに広げていくとともに、新たな放送文化の創造・発展に寄与します。

加えて、取材・報道体制をいっそう強化して、緊急報道をはじめとする視聴者の“生命・財産を守る”ための正確で迅速な情報提供に努めます。

平成23年度国内放送番組の編集にあたっては、こうした考えのもと、限られた経営資源をより効率的・効果的に活用しながら、質の高い番組や情報をあまねく確実に届けます。

# 編集の重点事項

---

## 1. 衛星放送の2波化とテレビ4波の役割の明確化

平成23年7月のテレビのフルデジタル化に先立ち、衛星放送は、4月から高画質のハイビジョン2波に再構築し、2波の個性を打ち出した新しいサービスを開始します。BS1は、“国際情報・スポーツ情報”チャンネルとして、新たな国際情報番組の開発やスポーツ中継の拡充を、BSプレミアムは、“本物志向の教養・娯楽”チャンネルとして、テーマや演出にこだわった、個性的な番組やダイナミックな特集編成によって、生まれ変わったチャンネルの魅力を訴えます。さらに、地上波の総合テレビジョン・教育テレビジョンをあわせたテレビ4波について、既存の番組も含めたコンテンツのチャンネル間の再配置も行い、それぞれの個性・役割をさらに明確にして、4波全体で、より幅広い視聴者の関心と興味に応えます。

## 2. 多彩なサービスによる接触者層のさらなる拡大

公共放送として、あらゆる世代の視聴者に親しまれる放送を実現するために、各波において多彩な番組を編成して、サービスの充実を図ります。

総合テレビジョンは、平日夜間の番組の内容を充実させるのをはじめ、土曜夜間をスケール感あふれる特集の時間として、家族そろって楽しめるエンターテインメント性豊かな番組、社会の中核を担う世代に向けた見ごたえのある番組を連続して編成します。また、教育テレビジョンは、“ティーンズ層”の話題となる番組を平日夕方に編成するなど、青少年へ向けたサービスの強化を図ります。

さらに、音声放送は、テーマを絞って特定のファン層の期待に徹底的に応える番組や、インターネットと連動した若い世代に向けた番組などで、聴取者層の拡大を目指します。

### 3. 安心・安全を守り、暮らしに役立つ報道の強化

公共放送の重要な責務である正確で迅速な報道の実施に万全を期します。

不安定な内外の政治状況や長引く経済の停滞による産業や雇用への影響、予想を超えた自然災害の発生、地球規模の環境変化など、さまざまな問題が人々の暮らしを脅かす中、NHKは報道体制をいっそう強化し、人々の暮らしと安全を守る情報を的確に伝えます。

また、ニュースの背景をわかりやすく解説する情報番組や、世の中の流行から経済の動きを読み解く番組などにより、視聴者の関心に的確に応えます。

さらに、データ放送では防災に役立つ情報を充実するなど、さまざまなメディアで、それぞれの特性を生かした情報を提供します。

地方自治のあり方に注目が高まる中、平成23年4月に予定される統一地方選挙にあたっては、開票速報など関連放送の実施に万全を期します。

### 4. 質の高い“大型コンテンツ”の開発

フルデジタル時代の幕明けに、壮絶な地球環境の変化を生き抜いてきた、人類15万年の歩みを見つめるシリーズや、最新のデジタル映像技術により、これまで誰も見ることはできなかった宇宙の姿を体感する企画など、良質でスケール感のある大型コンテンツを積極的に編成し、存在感を示します。

このほか、平成21年度から、日本の近現代史を見つめなおしてきた「プロジェクトJAPAN」は、締めくくりとなる平成23年度に、「太平洋戦争開戦70年」「サンフランシスコ講和条約60年」の節目の年として、関連の大型企画を放送します。

## 5. “放送局のちから”を發揮した放送の充実

少子高齢化、医療や福祉、雇用など、地域社会は生活の基盤となる分野でさまざまな課題を抱えています。

全国の地域放送局は“地域を元気にする拠点”として、地域の人々に心から喜ばれ、役に立つ、きめ細かなサービスを展開します。また、地上波において、地域から全国へ向けた情報発信枠を強化して、地域の持つ多様な魅力や地域が抱える課題を伝えます。さらに、若い世代が参加できる公開番組の展開や、地域向けデータ放送のリニューアルなど、さまざまな取り組みで地域サービスを拡充します。

## 6. 放送と放送以外のメディアを連携させた多様なサービスの展開

テレビのフルデジタル化により、さらに多くのテレビでデータ放送を見ることが可能になり、視聴者にとってより身近なメディアになります。これを機にデータ放送は、既存のコンテンツの見直しと新しいサービスの開発で、視聴者の利便性の向上と内容の充実を図ります。

また、放送・通信融合時代にあって、さまざまな年齢層の視聴者がNHKの情報・コンテンツに“いつでも、どこでも、もっと身近に”接触できる環境を実現するために、放送に加えて、パソコン、携帯端末等も活用したサービスに引き続き取り組みます。

## 7. テレビのフルデジタル化への円滑な移行に向けた取り組み

7月のテレビのアナログ放送終了・フルデジタル化に向けては、放送を  
あまねく届けることが公共放送の重要な責務との認識のもと、デジタル放送  
への円滑な移行のための情報の周知に努めます。

放送を通じて、デジタル放送受信のための基本的な知識や情報を提供する  
ほか、個々の受信者の受信環境に応じた対策など、きめ細かな情報の提供に  
努めます。並行して、デジタル放送の魅力を最大限発揮した番組も積極的に  
編成して、視聴者のデジタル放送移行への意欲を高めます。

## 8. “人にやさしい放送”の充実

字幕放送・解説放送・手話など“人にやさしい放送”の充実を推進します。

字幕放送は、総合テレビジョンの生放送の情報番組に新たに字幕を付与するな  
ど、今まで以上にサービスの拡充を図ります。また、解説放送については新たに  
長期計画を策定し、サービスの充実に努めます。

以上の重点項目の実施にあたっては、以下のような施策を中心に、創造的で  
活気に満ちた取材・制作体制を構築します。

○限られた経営資源を効率的・効果的に活用する制作体制を構築します。

○企画競争などを通して国内外の優れた制作者のざん新たな発想や手法を積極的  
に取り入れ、番組の多様化を推進します。

○放送倫理やコンプライアンス意識の徹底、人材の育成に力を入れ、確かな情報  
と質の高い番組の提供に努めます。

# 各波の編集方針

---

## 総合テレビジョン

総合サービス波として、国民生活に必要なニュース・情報番組や創造的な文化、教養、娯楽番組などの調和ある編成を行います。フルデジタル時代を迎える映像4波の基幹波として、各世代に共感される多彩な番組や、世代を超えて楽しみ、考える“NHKだからできる放送”のさらなる充実を図ります。また、地域放送について、全国への発信も含めていっそうの充実を図ります。ワンセグ放送では同じ内容の番組を同時放送することを基本とします。

〔放送時間〕

○1日24時間放送を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○定時番組について、報道番組20%以上、教育番組10%以上、教養番組20%以上、娯楽番組20%以上を編成します。

※7月までアナログ総合テレビジョンでは同じ内容を放送します。

## 教育テレビジョン

教育テレビジョン（Eテレ）は“未来を志向する”チャンネルとして、主に“未来を生きる子どもたち”“明日を担う若者”を対象とした番組を強化します。また、昨年度に引き続き「大きく伸びろ！子どもたち」「ともに生きる社会」「心豊かな暮らし」を3本柱のテーマとして、より広い視聴者の期待と要望に correspond するとともに、定時マルチ編成を実施します。

ワンセグ放送では同じ内容を同時放送しつつ、昼休み・深夜・週末を中心に独自サービスの充実を図ります。

〔放送時間〕

○1日21時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○定時番組について、教育番組75%以上、教養番組15%以上、報道番組若干を編成します。

※7月までアナログ教育テレビジョンでは同じ内容を放送します。



## BS 1

“いま”の国際情報、“ナマ”のスポーツを中心に、ライブ感あふれる波としての魅力を訴えます。スポーツについては、朝から午後にかけての時間帯をスポーツゾーンとして強化します。国際情報については、世界のニュースや多様な情報を伝える朝と夜のデイリー基幹番組を刷新するとともに、週末には最新の映像技術を駆使し、インターネットで世界を結ぶなど、デジタル化のメリットを視聴者が実感できるような番組を開発し、“世界のいま”を知ることができるチャンネルとして視聴者への浸透を目指します。

〔放送時間〕

○1日24時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○定時番組について、教育番組10%以上、教養番組20%以上を編成します。

※7月までアナログBS1では同じ内容を放送します。

## BSプレミアム

“本物志向の教養・娯楽波”のBSプレミアムは、40～50代を中心とした視聴者に向け「紀行」「自然」「美術」「歴史」「宇宙」「音楽」「シアター」という7つの分野の良質な番組を核に、映画やドラマなども含めた多彩な番組で、新しいBS波への期待に応えます。また先進的な演出手法やテーマ、ダイナミックな編成に挑戦し、新たなテレビ文化創造に貢献します。

〔放送時間〕

○1日24時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○特に定めない。

※7月までアナログBSプレミアムでは同じ内容を放送します。

## ラジオ第1放送

ニュース・報道番組のいっそうの充実・強化に取り組み、災害など緊急時には機動的な編成を行うなど、「安心ラジオ」としての役割を果たします。また、身近な“生活情報波”として、インターネットや携帯端末を通して聴取者の声を取り入れた番組づくりで双方向化を進めるなど、いわゆる団塊世代を中心にさらに若い世代へと聴取者層の拡大を図ります。

〔放送時間〕

○1日24時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○定時番組について、報道番組35%以上、教育・教養番組あわせて25%以上、娯楽番組20%以上を編成します。

## ラジオ第2放送

平成23年4月に放送開始80周年を迎えるのを機に、“生涯学習波”としてさらなる質の向上を図ります。中核となっている語学番組や文化・教養番組のさらなる充実を図り、聴取者との接点を増やします。また、語学番組を中心に、ストリーミングをはじめとしたクロスメディア展開を引き続き行い、聴取者が利用しやすい形での番組提供に努めます。

〔放送時間〕

○1日19時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○定時番組について、教育番組65%以上、報道番組10%以上教養番組15%以上を編成します。

## FM放送

“総合音楽波”として、優れた音質を生かした多彩な音楽番組や、幅広い聴取者が楽しめるさまざまな分野の長時間特集を編成し、音楽ファンの期待に応えます。また、災害など緊急時には、地域情報波としてラジオ第1放送と連携して機動的な編成を行うなど、きめ細かな情報を提供します。

〔放送時間〕

○1日24時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○定時番組について、報道番組10%以上、教育・教養番組あわせて40%以上、娯楽番組25%以上を編成します。